

様 式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成25年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 補助事業期間 平成24年度～平成26年度
5. 課題番号

2	4	7	2	0	1	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 言説の生=政治——戦時下日本語文学に関する総合的研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1 0 4 3 3 7 0 7	ゴミブリ ノリツグ 五味渕 典嗣	文学部	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

2013（平成25）年度は、研究の発展・展開期と位置付け、アジア・太平洋戦争期の戦争と戦場の表象・表現にかかわる文字テキストや映画の調査・分析を軸とする、以下の（1）～（3）の活動を行った。

（1）日中戦争期・アジア太平洋戦争期の戦争文学・戦記テキスト関係資料の収集・調査・解析。国立国会図書館、日本近代文学館、慶應義塾大学図書館などの所蔵調査から、1937-1941年に新聞・雑誌メディアに掲げられた戦争文学・戦記テキストの網羅的な調査を行い、関連年表を作成した。また、それらの言説の検討から、同時代の戦場を描く表現の言語的特質について検討、その成果を論文として公表した。

（2）主に日中戦争期の戦争文学・戦記テキストと軍・情報当局の「思想戦」「宣伝戦」との関連についての検討。前年度までに蓄積した資料の分析をもとに、当時の陸軍が日本語言説の翻訳・流通可能性を前提に情報宣伝戦略を立案していたこと、1938年の武漢作戦時に計画・実施されたいわゆる「従軍ペン部隊」が、「国内思想戦」の一環として企画されていたことを明らかにした。

（3）関連する研究課題・研究プロジェクトとの連携。研究分担者として参加している科研費プロジェクト「朝鮮近代文学における日本語創作に関する総合的研究」（基盤研究（B）、研究代表者：波田野節子）での活動のほか、原爆文学研究会、昭和10年代／1940年代文学研究会など、戦争・戦場の表象や戦時期の文学・文化・思想に関心を寄せる研究者グループのプロジェクトに積極的に参加した。11月には韓国・ソウルで行われた学術会議「下からの綴り方、他者の文学」で研究発表、内外の研究者との交流を深めることで、学際的・国際的な研究の進展に向けた環境を整えた。また、戦時におけるメディア統制と戦後の核関連広報との類似性に注目、実際の施設視察や関連言説の調査を行い、その成果を論文化した。